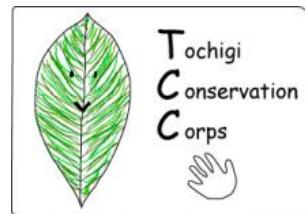


特 定 非 営 利 活 動 法 人
ト チ ギ 環 境 未 来 基 地

平 成 2 6 年 度

(平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 27 年 3 月 31 日)

事 業 計 画 書



平成 26 年度 重要方針

作業を必要としているフィールドは多く存在するが、今の組織体力では着手できない。自然環境の保全を加速するために、活動できる人を増やすとともに、それを支える資金も安定的に確保する。

1. 作業の質と量を高める。活動の成果を、人数・時間だけでなく、作業量（面積等）でも出せるようにする。

森林山村多面的機能発揮対策事業など具体的な作業成果を（どれだけ竹林、里山がきれいになったか）重視する事業への参加をきっかけに、活動の質と量の見直しをはかる。今後の Conservation Corps の発展に向けては、Fee for Service の充実が不可欠であり、そのためには作業質と量の向上をいかにはかるかが重要である。そのための基礎となる作業量の記録をはじめ、作業技術研修にも力をいれる。

2. 活動とファンドレイズの一体化を図る。活動量増加と寄付額の増加が比例関係になるようにする。

作業の対価を得にくい重要な活動も継続して行えるようにファンドレイズにも力を入れる。「苗木 for いわき」プロジェクトはこれまでのファンドレイズ活動を継続する。栃木県内での活動も、Conservation Corps の運営の支援として「若者森づくり基金」のファンドレイズを本格的に開始。

3. 会員の増加をはかる。会員の協力を広げるとともに、会員の自主活動も始める。

これまで会員との関わり方を一新し、会員が参加しやすい活動の充実や、会員が自主的に行える活動もつくっていく。職員がほぼすべてを企画、運営するから、職員と会員で活動をつくっていくに舵をきり、活動自体を充実させるとともに、会員増加にもつなげる。

4. 事業収入の増大。Fee for Service 現場を増やすとともに、木づかい運動とも連動し、木工クラフト等も始める。

今後の森林ボランティア活動の潮流は、森林の整備 → 木材の活用のセットに向かうと考えられる。木を生かしたワークショップや木をつかったアイテムづくりなどを活動に取り入れ、事業収入の拡大にもつなげていく。

数 値 目 標

ボランティアの数 3, 000人（栃木1,500人、いわき1,500人）

整備面積 竹林 3.0ha 里山 2.5ha 海岸林 2.0ha

寄付額 2,500,000円（苗木150万円、栃木100万円）

平成 26 年度 事業一覧

1. 若者の社会貢献活動拠点づくり事業

- ① Conservation Corps プログラム、ステップアッププログラムの実施

2. 若者のチームによる長期間の森林、自然、地域保全活動（Tochigi Conservation Corps）事業

- ① Conservation Corps プログラム 2014 春（第 10 期）
- ② Conservation Corps プログラム 2014 秋（第 11 期）

3. 自然環境の保全、再生、活用に関する事業

- ① 森林山村多面的機能発揮対策事業
- ② その他のフィールドでの作業

4. 地域・環境活動リーダーの育成事業

- ② 環境保全リーダートレーニングプログラム

5. 災害からの復旧・復興に関する事業

- ① 海岸林の清掃、整備活動と、再生に向けた「苗木 for いわき」プロジェクト事業
- ② 栃木県避難家族向け、自然活動の企画運営

6. バイオマス資源の活用推進に関する事業

- ① 木工クラフト教室、木工クラフトを活用した応援会員の獲得

7. 若者自立支援団体との連携による、人と緑を育む森づくり事業

- ① 若者自立支援団体の日帰り活動の企画運営（しごとや、センター）
- ② サポステ短期合宿プログラムの運営

8. 国際ボランティアの受け入れを通じた、国際協力事業

9. 若者の社会貢献に関する調査研究事業

- ① 米国 Conservation Corps に関する調査研究報告書の制作

10. ソーシャルプロモーション事業

- ① 会報の発行 4月、6月、8月、10月、12月、2月
- ② メールマガジンの発行 毎月
- ③ シンポジウム等の開催

1. 社会貢献活動拠点づくり事業

Conservation Corps プログラムの終了後、次のステップに向けて準備をするメンバーに、オフシーズンに明在庵を拠点として活用してもらう。活動の場の提供や、実現したいことへのサポートもできる限り行う。

2. 若者による、森林、自然環境、地域再生活動、Tochigi Conservation Corps の実施

① Tochigi Conservation Corps 2014 春	
期 間	平成 26 年 4 月 20 日 (日) ~ 7 月 11 日 (金) 3 ヶ月
目 的	米国の Conservation Corps をモデルとした、若者のチームによる長期間の環境保全活動の日本版の確立。作業の成果と若者の育成の両立を図る。日本の環境保全活動の質を高める。
内 容	プログラム中の活動、作業内容 1. 風と緑の幼稚園 創造の森整備事業 2. あさひが丘の整備 3. 竹原竹林整備 (森林山村多面的機能) 4. 各種イベントの運営、参加 5. 学習・技術研修
参 加 者	全期間参加者 3 人 部分参加者 延べ 20 人 (部分参加者、週末ボランティア)
場 所	宇都宮市、茂木町、高根沢町
事業目標と成果	各フィールドにおける、達成目標及び計画を定め、作業することの複合的な価値を高める。 作業技術なども高め、より大きな成果を上げることができるよう研修なども充実させていく。

② Tochigi Conservation Corps 2014 秋

期 間	平成 24 年 9 月 22 日 (月) ~ 12 月 10 日 (水) 3 ヶ月
目 的	米国の Conservation Corps をモデルとした、若者のチームによる長期間の環境保全活動の日本版の確立。作業の成果と若者の育成の両立を図る。日本の環境保全活動の質を高める。
内 容	<p>プログラム中の活動、作業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 風と緑の幼稚園 創造の森整備事業 2. あさひが丘の整備 3. 竹原竹林整備 (森林山村多面的機能) 4. 各種イベントの運営、参加 5. 学習・技術研修
参 加 者	全期間参加者 5 人 部分参加者 30 人
場 所	宇都宮市、高根沢町、茂木町
事業目標と成果	<p>各フィールドにおける、目標及び計画を定め、作業することの複合的な価値を高める。</p> <p>作業技術なども高め、より大きな成果を上げることができるよう研修なども充実させていく。</p>

3. 自然環境の保全、再生、活用に関する事業

① 森林山村多面的機能発揮対策交付金活動

期 間	平成 26 年 6 月上旬 ~ 平成 27 年 1 月中旬
目 的	荒れた竹林の整備と竹原地区の活性化に向けて、ボランティアと共に年間を通じて活動。森林・竹林・里山を整備する仲間の会の皆さんのご協力を得て実施。
内 容	Conservation Corps プログラム、週末ワークキャンプ、ユースとの協力を組み合わせて竹林 2ha、里山 2ha を整備する。空間利用プログラムは、若者支援団体とも協力し実施。
参 加 者	<p>作業ボランティア 延べ 300 人</p> <p>空間利用プログラム 6 回 × 10 人</p>
場 所	茂木町竹原地区
事業目標と成果	整備の質を追求し、ボランティアでもこれだけできるということをアピールする。

4. リーダー養成事業

④ 環境保全活動リーダー養成事業	
期 間	平成 26 年 5 月、11 月
目 的	環境保全活動の現場をコーディネートできる人材を育成し、環境保全活動の質、量を高める。
内 容	1 泊 2 日のリーダートレーニングプログラムを年 2 回開催する。外部講師の力も借り、深みのあるプログラムをつくる。
参 加 者	6 人 × 2 コース = 12 人 (CC メンバー + 一般)
場 所	明在庵
事業目標と成果	トチギ環境未来基地の活動人材バンクとしても活かしていく。フィールドが増えてきたら、フィールドを任せると等彼らが主体的に活動できる体制をつくる。会員化も。

5. 災害からの復旧、復興に関する事業

① 福島県いわき市での、海岸林再生事業	
期 間	平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月
目 的	いわき市の美しい海岸林の再生に向け、市民の力をを集め活動を行う。海岸林の清掃や整備、市民の寄付を集め、市民に苗木を育ててもらい植林を行う。
内 容	海岸林の清掃、整備は毎月定期的に行う。『苗木 for いわき』プロジェクトは、寄付を集める仕組みづくり、子どもたちや障がい者など、現場での復興支援活動がなかなかできない人達を中心に苗木を育ててもらい、それを海岸に植林する。誰もが震災からの復興に貢献できる仕組みをつくる。活動への参加を通じて、市民の主体的な地域づくり、防災意識の向上を図る。
参 加 者	事業目標に記載
場 所	いわき市及び栃木県
事業目標と成果	植林する苗木 5,000 本 海岸林整備 2ha 参加ボランティア 1,000 人 協力団体 計 100 寄付総額 1,500,000 円

② 栃木県避難家族向け、自然活動の企画運営	
期 間	平成 26 年 6 月、 月、 月
目 的	主に福島県から栃木県に避難している家族に向けた、自然体験活動を企画し、運営。親子にリフレッシュの機会を提供することと、家族の孤立を防ぐことを目的とする。
内 容	他団体にも協力してもらい、自然活動を企画する。楽しくて役立つような内容をつくる。1泊2日 3回開催
参 加 者	1泊2日：各回8人 計24人参加
場 所	明在庵+市貝町、茂木町
事業目標と成果	とちぎ暮らし応援会と連携し、避難している家族の孤立を防ぐ。この事業は、その入口。悩みなどある場合には、とちぎ暮らし応援会の専門的な支援につなげる。

6. バイオマス資源の活用推進に関する事業

① 木工クラフト教室、木工クラフトを活用した応援会員の獲得	
期 間	平成 26 年 5 月～平成 27 年 2 月
目 的	木材の有効活用を進める。
内 容	森林、里山の整備で出た木材を活用し、木工クラフトキットを制作。木工クラフト教室を定期開催するとともに、栃木県森づくり応援寄付と連動した木工クラフトキットを制作。
参 加 者	木工クラフト教室 6 回×10 人=60 人
場 所	明在庵
事業目標と成果	整備作業→材料搬出→乾燥→パーツ作りを仕組み化する。 木工クラフトキット制作 100 セット

7. 若者の自立支援団体と連携による、人と緑を育む森づくり事業

① 若者自立支援団体向け日帰りプログラム事業	
期間・時期	平成 26 年 5 月 ~ 平成 27 年 3 月
目 的	若者支援団体を利用する若者たちの力を環境保全活動に繋げる。参加した若者たちが力をつけ、視野を広げられるプログラムとする。合宿型の良さを活かしたプログラムを構築。

内 容	各フィールドで一緒に活動。 1. とちぎ青少年自立援助センター 4日×6ヶ月=24回 2. 栃木県若年者支援機構 4日×3ヶ月=12回
参 加 者	1. 7人×24回=168人 2. 7人×12回= 84人
場 所	各フィールド
事業目標と成果	参加した若者の状態変化（元気になる、コミュニケーション力の向上、前向きな意欲の向上、森林、環境への興味向上） 環境保全活動の、自立支援的効果のまとめ、検証、ノウハウ化

② 若者自立支援団体向け短期合宿プログラム事業	
期間・時期	平成24年5月～平成25年2月
目的	若者支援団体を利用する若者たちの力を環境保全活動に繋げる。参加した若者たちが力をつけ、視野を広げられるプログラムとする。合宿型の良さを活かしたプログラムを構築。
内 容	1. とちぎ青少年自立援助センター×3回 2. 栃木県若年者支援機構×2回
参 加 者	1. 6人×3回=18人 2. 6人×2回=12人
場 所	明在庵及びプロジェクトサイト
事業目標と成果	参加した若者の状態変化（元気になる、コミュニケーション力の向上、前向きな意欲の向上、森林、環境への興味向上） 環境保全活動の、自立支援的効果のまとめ、検証、ノウハウ化

8. 国際ボランティアの受け入れを通じた国際協力事業

Conservation Corps プログラムへのアジア人ボランティアの受入。計4名。

9. 若者の社会貢献に関する調査研究事業

① 米国 Conservation Corps に関する調査研究報告書の制作	
期間・時期	平成 26 年 7 月～27 年 3 月
目的	今後の Conservation Corps プログラムの発展に必要な参考資料となる米国 Conservation Corps の調査研究を行う。
内容	研究成果を、運営マニュアルにまとめる。大木本が EarthCorps で得た知見をマニュアルにいからす。 マニュアルは冊子にして、配布、ダウンロードできるようにする。
場所	事務局

10. ソーシャルプロモーション事業

① 会報誌の発行・ボラ募集情報の発行	
期間・時期	会報：4 月、6 月、8 月、10 月、12 月、2 月（偶数月発行）
目的	環境保全活動の必要性、若者の活躍、想いを広く社会に発信する。共感をひろげ、応援いただく方を増やす。Conservation Corps に関する情報も発信し、プログラムの意義を広く伝える。環境分野で活動する人のインタビューなども記事とし、読み物としての面白さも高める。
内容	<ul style="list-style-type: none">・活動、近況報告・研究、論文の発信・参加者募集や関連情報の発信
受益者数	会員及び協力団体
場所	事務局

② メールマガジンの発行	
期間・時期	毎月発行
目的	環境保全活動の必要性、若者の活躍、想いを広く社会に発信する。共感をひろげ、応援いただく方を増やす。Conservation Corps に関する情報も発信し、プログラムの意義を広く伝える。参加者募集などの広報としても。

内 容	・活動、近況報告 ・参加者募集や関連情報の発信
受 益 者 数	メールマガジン購読者数
場 所	事務局

③ ホームページの管理、更新	
期間・時期	通年
目的	タイムリーな情報発信と、活動報告、ボランティア募集等幅広く。事務局で管理できるように、平成 26 年度の大幅改定を目指す（8 月）。
内 容	・活動、近況報告　・参加者募集や関連情報の発信
受 益 者 数	ホームページ閲覧者数
運営人数	ホームページ更新：
場 所	事務局

④ 講演講師、研修講師の派遣	
期間・時期	声をかけていただいた中で判断。社会の役に立てる内容であれば基本的に受けていく。

⑤ シンポジウムの開催	
期間・時期	10 月
目的	「若者と環境」、「グリーンカラージョブ」、「Conservation Corps」のいずれかの内容で、活動の必要性等を発信する。
内 容	Conservation Corps プログラムの報告会以外に、取り組みについて発信できるようなシンポジウムを開催する。
受 益 者 数	50 人
場 所	宇都宮市内（ぽぽらを想定）

その他

ファンドレイズ イベントの開催	
期間・時期	1月
目的	活動を持続的、発展的に行うための財政基盤を強化するため に、ファンドレイズの新しい仕組みをつくる。
内容	米国 EarthCorps のファンドレイズイベントを参考に、有効 なイベントを作りこむ
場所	宇都宮市内